

大山甲川完全遡行

2004. 8月7-8日



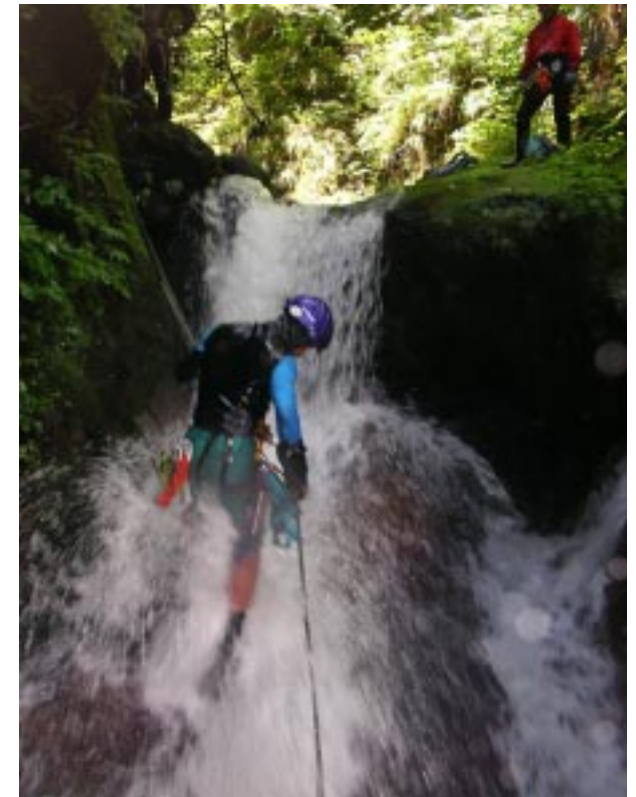
鷺橋より入渓



種 目：沢登り
山 域：鳥取県
場 所：大山甲川
日 時：04.08.07-08
コ ー ス：鷺橋 - 下廊下 - 中ノ廊下 - 上廊下 - 大休峠小屋 - 林道 - 鷺橋
メンバー：石野・大塚・大倉・大本・恵

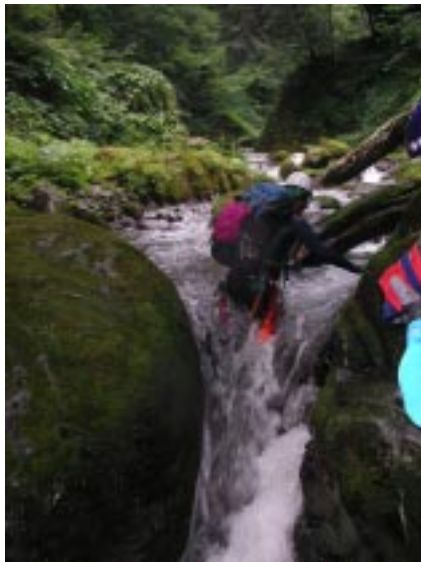


沢登人にしか味わえない素晴らしい沢である。
豪快なゴルジュが続き多い水量でかつ幾年にも成長した緑多いコケがゴーロや淵に取り巻き、それらを見守るかのようにトチやコナラの巨大原生林に囲まれている、水生昆虫や蛙があちこちにおいて、アキアカネが飛び交い、ヒグラシが涼しげに歌い生命を感じられる、とても良い沢である。



7日 晴れ 鷺橋-下ノ廊下-中ノ廊下-二俣

米子自動車道溝口ICで一路大山路の鷺橋手前で駐車。



8:40 鷺橋下から入溪

ゴロ口が少し続くとすぐに泳ぎで始まる。

ヘツったり飛び込んだりしながら、石野氏と大倉氏の絶妙のコンビでショルダーで下ノ廊下をどんどん進む。ロープを出してもらいながら水流に逆らって突き進んでいく。

9:10 蝶形の釜

「あれ～、こんなツルツル岩をどうやって突破するんや？」よく見ると先行者が枯れ木を踏み台にしてクリアしたらしい。しかしこの枯れ木も我々の

溯行開始すぐに小滝が現れる

時には「ボキッ」と折れてしまいターミネーター大倉氏のショルダーで突破する。次から次ぎへと2-3mの連爆で水量が多く泳いではショルダーで突破の連続である。無理な箇所はザックをロープでくくりリフトアップしていく。

10:14 30m 大滝

右岸樹林の上部から30mの豪快な滝を横目に、ゴルジュを10数m泳いで斜爆横まで行くが左岸の岩は磨かれてとても手がかりが無い。ガイド本にはここは左岸を巻いて上流へと書いている、しかし完全遡行を目指す

「White Bird 沢登り隊」は低



蝶形ノ滝はショルダーで



泳いで取り付きに行く

水温にもめげずに果敢のチャレンジする。しかしツルツル岩は突破口が無い!、あきらめて斜爆を横切り右岸に、ターミネーターのショルダーで丸い大岩にカエルのように踏ん張りながら何とか石野氏が突破!。それにしても長時間半パン半袖で浸かっているも動じない大倉氏は常人で

はない。ロープを出してもらい私と大本・恵の3人がラッコ泳ぎで進むが斜爆に近づくにつれて進まなくなり往生してしまった。登りきると廊下となり少し安堵するが小滝やお釜が続き手を抜けない。

11:35 下ノ廊下最大の難所

10mほどの淵にものすごい勢いの4mの斜爆がかかり左岸の残置スリングを頼りに斜爆を越えるところだ。水量が多くてヘルメット越しに残置スリングに手を伸ばしてつかみ、それを頼りにものすごい勢いの



ものすごい水流に足がすくむ恵

斜爆の中に足をおかねばここは突破できない。私が3番手に行くとなんとあの大倉氏もここで足をすくわれて右岸の岩の下にいた。最後に体重の軽い恵は足を置くなりあっさりと持って行かれてアッ言う間に滝滑りでホワイトウォーターへ持って行かれること3度、も



険悪な場所でビレーしてもらい懸垂で降りる

う半泣き状態でビビってしまっているがどうしようも出来ない。しかしここでターミネーターがスリングを出して引っ張り上げようとするが、いくら何でもこのものすごい水流では歯が立たない、それどころか本人も持って行かれそうになり仰向け状態になってしまった。しょうがないので右岸上部よりセルフビレーをとっているハーケンからスリングを伸ばしアブミをセットしてやるが、これも腕の力で自分を支えられなくともたもやドボンッ！。ギリギリ手を伸ばし思いっ切り引きずり上げてなんとかクリア(-_-;)。すぐさま右岸をへツツて少々高巻きするのだが、ここが険悪な箇所です。

トップの石野氏が最も神経集中した所だ。我々はロープであっさり上げてもらい再び沢まで懸垂下降。ガイド本はここはあっさり左岸を大きく巻くと書いてある。先行者の2パーティーも巻いたようだ。

13:20 小休止
下ノ廊下だけで充分



中ノ廊下は小滝群が連なる



二俣にてビパーク

今日中に突破できて大休峠小屋でくつろげるかと思っていたがやはり、この水流と水量ではそう簡単には行けなかった。次回はここまで遡行してこの二俣から帰っても十分に堪能出来そうである。早速に枯れ木を集めて火を起し、濡れ物を乾かして各自ツェルトを張って、この偉大な甲川に「かんぱ~い」。

に堪能でき中ノ滝を過ぎて小休止を入れて行動食を補充する。

14:08 中ノ廊下
中ノ廊下はゴルジュ帯ではあるが問題なくクリアできる。この廊下に入る手前で先行パーティ3人がテントを張っていた。

16:08 二俣でキャンプ

8日 晴れ 二俣-上ノ廊下-大休峠小屋-林道-鶯橋



上ノ廊下にワクワクしながら溯行

7:30 二俣スタート
昨夜は原生林に抱かれて沢の音を子守唄にいつしかみんな熟睡モードに入っていた。朝の焚き火の煙りが森中に曇のように浮き上がりなんとも幻想的なモノノケの世界のようだ。

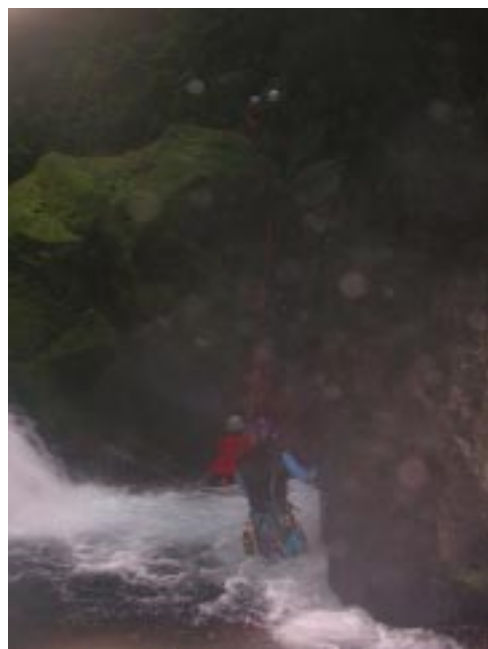
7:45 上ノ廊下



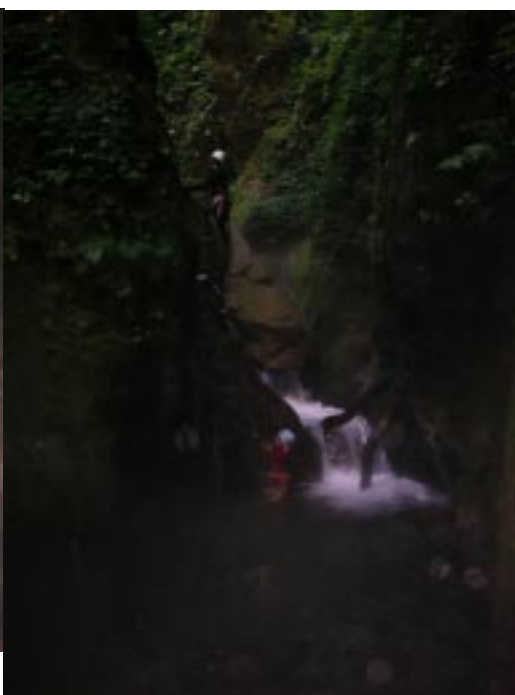
上ノ廊下入口、朝一番の泳ぎは冷たい

朝の散策を楽しみながら行くと直ぐさま上ノ廊下入口から泳ぎが入る。ガイド本では左岸のハーケンにアブミトラバースで滝上のテラスへと書いてあるが、我々は淵を泳ぎ大倉氏の朝一番のショルダーで石野氏がダイレクトにテラス

下のハーケンにアブミをかける。続いてザックをロープリフトして上



上からと下からのサポートでアブミに乗った恵を押し上げる



アブミで滝上のルート模索の石野氏



2段5mの滝

げてクリア。続いて、そのテラスから淵に飛び込みアブミで滝上へのルートだが、その右横のチョックストーン近くを登ってクリアする。しかし水を含んだザック5ヶを一人でリフトアップするのは並大抵の力を要する。この朝一番で2時間もかかってしまった。そうこうしているうちに後続パーティーが上ノ廊下入口にきていた。またこの廊下を一人で下っていく強者とも出会った。

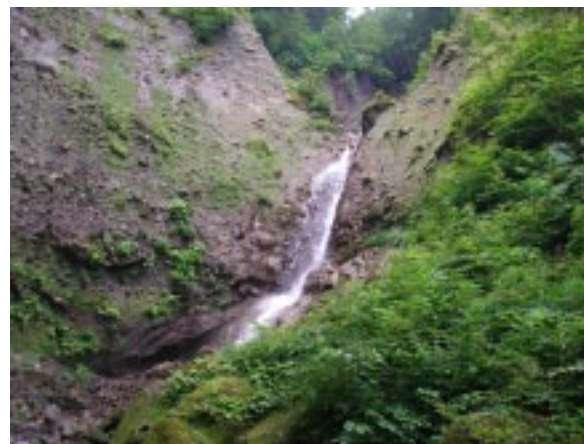
10:00 最後の2段5mの滝

そこからは右岸左岸を少々へツったり、巻いたりしながら問題なくクリア出来る。最後の2段5m

の滝で上にザックをデポして懸垂下降したりして楽しむ。

10:42 10m 堰堤

この堰堤を高巻き再び沢に降りてくる。



土壁の庄司ヶ滝 12m

13:35 12mの庄司ヶ滝

そこから長~いゴーロ帯が延々と続く。この滝は泥壁で出来ているのでとても登れない、左岸を大きく高巻くのだが急斜面なので木や笹を驚掴みにしながら足下悪い中を登って稜線まで出て再び沢に降りる。またまた長いダラダラしたゴー



大休峠小屋

口帯を進むと三俣に出くわす。

15:05 大休峠小屋

三俣の右沢を詰めて登っていくとやっと石畳みの林道へぶつかる。それを左に2分ほど行けば小屋に到着する。

17:05 大山周遊道路

小屋から3.9kmの林道を下る途中でトンピマイタケを収穫する。こ

の道路から石野・大倉両氏に空身で約8km先の鷺橋までランニングで車を取りにいてもらう、さすがは現役トライアスリート！。

PS.

2年越しの甲川だったが、沢や雪はその時々で量で苦にも楽にもなり難度も様々に変わるのでいちがいにデータを鵜呑みできない所に面白みがある。

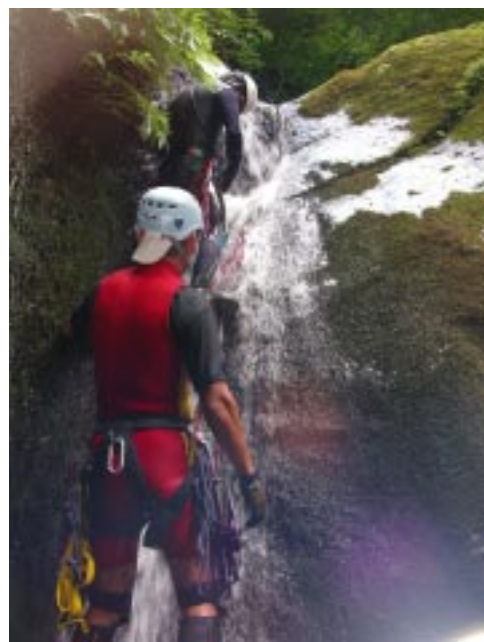
今回の様子ではもっと軽量化に専念するとスピーディー行動できると思った。また二俣まで行き、ザックデポで上ノ廊下の最初のゴルジュを往復して二俣より帰れば充分に楽しめて日帰りも可能であろう。今回私はサーフィン用のラッシュガードを着込み上下ウエットを着用したがそれでも水温低下で寒かった(-_-)。

この甲川は毎年チャレンジしたいものである。

次ページにシャワークライム写真特集あり(^_^;)



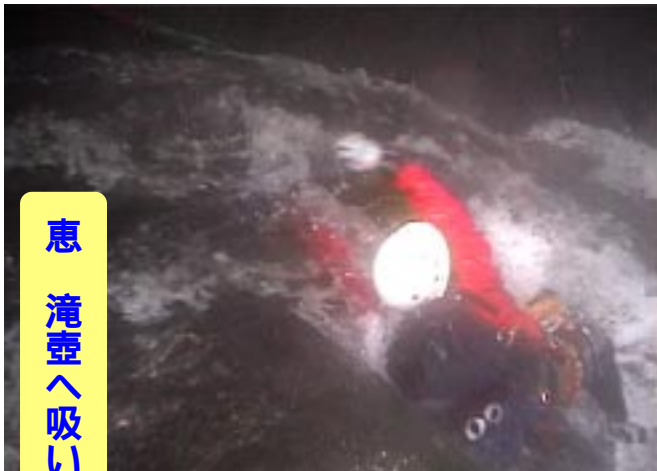
ラッコ泳ぎ



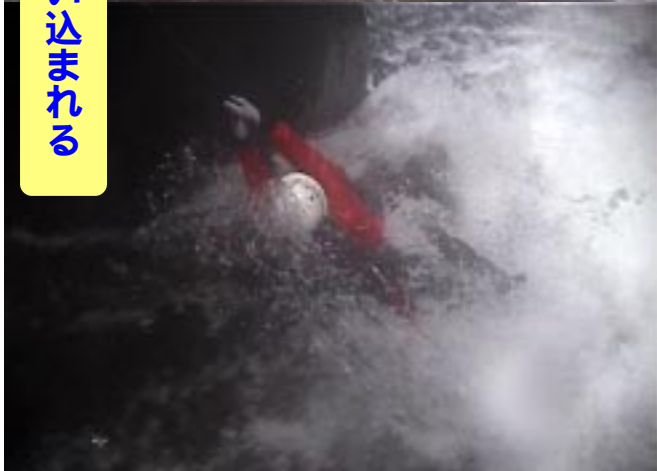
アブミをかける



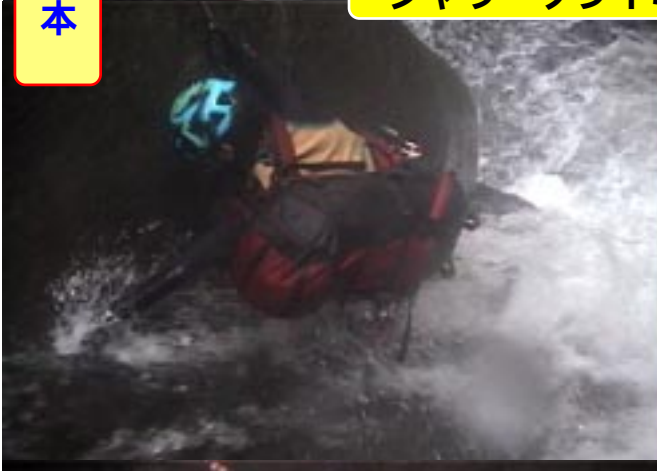
素晴らしい日本庭園が広がる



恵 滝壺へ吸い込まれる



踏ん張る 大本

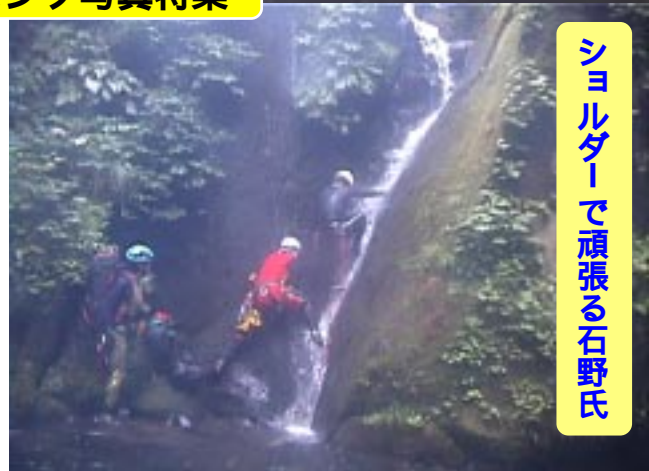


こぼれるターミネーター

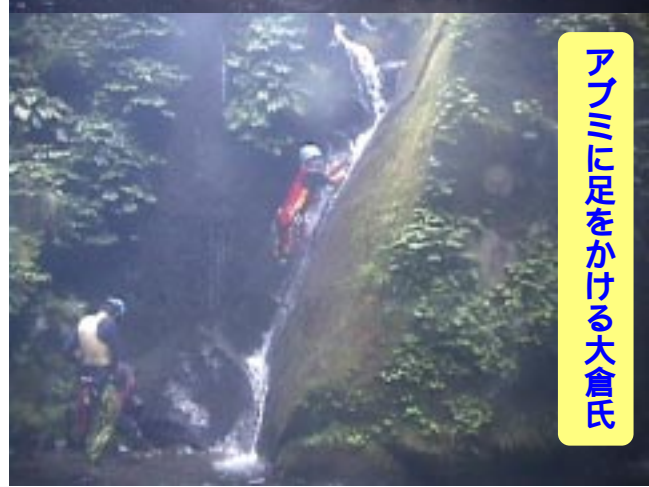
シャワークライミング写真特集



アフリミで直登の大本



シヨルターで頑張る石野氏



アフリミに足をかける大倉氏